



館長だより

山形県産業科学館

令和 6 年 6 月 1 1 日(火)

発行 館長 加藤 智 一

マンスプレイング



2024 年 6 月 2 日
および 9 日の朝日新聞に、マンスプレイングのことが大きく取り上げられました。マンスプレイングとは、男性から上から目線で説

明や説教されたり、相手を無知な存在とみなす不当な差別で、時に障がい者や性的マイノリティーにも向けられることもあります。もともとは、女性たちのそうした経験から生まれた造語だそうです。この言葉が生まれたきっかけとなったのは、アメリカの女性作家レベッカ・ソルニットさんが、2014 年に書いた「Men Explain Things to Me」、日本では「説教したがる男たち」という題名で、2018 年に出版・翻訳したのはハーン小路恭子さんです。男性が女性を「無知」と見下して説明してくる行為として、

「Men」(男性)と「explaining」(説明する)を合わせたこの造語はネット上で生まれました。朝ドラ「虎に翼」でも話題になった家父長制。まさに、女性が知識の担い手になり、主体性を持つための活動を奪われる根底にあるのは、家父長制だと指摘しています。勘違いしてはいけないのですが、偉ぶる性質がもともと男性に内在しているわけではなく、社会構造に男性と女性の非対称関係があるから問題だと言っているのです(読み間違っていたらすみません)。男性の中には、責められているようだと感じる人もいるでしょうね。

例えばこんな事例が考えられます。ジムで運動していたら、隣に座っていたおじさんが、やたらとコーチしたがる。しかし、自分と同世代の女性には声もかけない。とか。

見渡せば、そんな奴は山ほどいるぞ。特に高学歴でキャリア十分と思っているあなた。自覚ないでしょうがそういう目で見られているかもしれませんよ。若い人から見れば、結構「うざい」んだと思います。私も含めて。娘が最近口きいてくれないのはそれか???

二十四節気と七十二候

6 月 5 日の天気予報では、だいたいどこの局でも二十四節気の一つ芒種(ぼうしゅ)の話をしてましたね。芒種は稲の穂先のような芒(のぎ)をもつ穀

物の種まきのころという意味だそうです。

もっと細かく分けたのが、七十二候というやつで、だいたい 5 日おきにかわる訳だ。6 月 5 日は蟻螂生(かまきりしょうず)。初夏になると、秋の内に産み付けたカマキリの卵から幼虫が孵化する頃という意味らしいです。昔の人は、自然をよく観察して、家事仕事や農業に上手く利用していたのでしょうね。二十四節気も七十二候も自然現象や植物、昆虫の変化を表したものがとても多いです。というより全部だな。

この季節感は、大事にしていきたいと思う反面、ちょっと合わなくなってきてるかなと思う一面もあり、6 月 5 日では田植え終わってない?とか、カマキリの卵の孵化は 4 月~5 月がピークでしょう。とか。気候変動のせいでしょうか、暦のせいでしょうか、ピンとこないものもありますよね。もし、新七十二候なるものを作るなら、是非カメムシをいれてほしい。ちなみに今年 6 月 1 0 日は入梅です。



亀の甲羅干し



このところ朝から爽やかな晴れ続きで、通勤自転車も軽やかに霞城公園を颯爽と駆け抜ける私です。

が、ふと西門からお堀を見れば、な

んと亀の軍団が仲良く甲羅干し。「こんなに亀いたっけ。」と優しい気持ちで眺めていたら、ムム!!アカミミガメ(ミドリガメのおっきいの)。イシガメじゃないのか?新世代の新たな生態系がここにもできていたとはビックリ。ところで、亀はなぜ甲羅干しをするのでしょうか。理由は主に 3 つ。一つ目は、亀は変温動物なので、体温が上がると活発に動くことができるようになります。体温が低いと、餌を食べてもしっかりと消化吸収ができません。二つ目は、ビタミン D3 の合成により、カルシウムの吸収を助け、甲羅が柔らかくなるのを防ぐ効果。三つ目は、病気の予防。皮膚病やカビの発生を防ぐためには乾燥も必要。こんな理由がちゃんとある訳だ。